

## 活動の概要

2015 年度の主な活動は、産業文化研究センター（RCIC）の運営、学内研究プロジェクトの実施、学外プロジェクトの実施、個人研究活動および学外活動であった。ソフトピア地区に移転して 2 年目となり、地域や産業からの期待がますます高まる中で、連携事業を推進するだけでなく、研究として位置づけていくことや新たな文化へとつなげていくことを試みた。

研究に関しては、昨年以上に地域や産業との連携が増え、多様なプロジェクトを担当することとなったが、これまで以上に多くの地域の企業や団体と関わることができ、大垣や東海地域で活躍する卒業生たちとの関係も強めることができた。

---

## 学内での活動

### 1 産業文化研究センター (RCIC)

移転から 2 年目となる本年は 60 余りの産業や地域連携の案件をこなした。地方創生元年と重なり、地方創生に関する相談が多く、新しい価値の創造や新しいパートナーシップの開拓に注力した。岐阜県内の美術館などの文化施設との協働事業が増え、本学教員や学生にとって独創的な表現を地域に問いかける場や機会をもつことが可能となった年でもあった。

2015 年度に実施した数ある連携の中で、意識的に RCIC の事業として直接ディレクションおよび制作を行った。中でも、揖斐川町で実施された揖斐川ワンダーピクニックにおける「地獄絵スタンプラリー」は、RCIC 研究員らが企画、デザイン、制作から実施まで全て担当し、RCIC の研究実績となった。この地獄絵スタンプは、揖斐川町一心寺に古くからある地獄絵をモチーフにし、デジタル工作機械で制作したものあり、地域資源のユニークな活用と地域連携の例からメディアでも大きく取り上げられ、当日は 500 名を越す人たちがスタンプラリーに参加した。

岐阜県美術館では、日比野克彦館長のディレクションで庭園にて開催された特別企画展「アートまるケット」の作品「花は色の棲み家」において岐阜県立アカデミー三校とともに制作協力を行った。本学は、テーマをもとにしたさまざまな展示やワークショップを学生が企画展示したが、そのディレクションを担当した。

IAMAS2016 では、県内外の企業・団体を対象とした新たな産業文化形成の可能性について議論する場として、ハードウェアスタートアップなどの分野の資金調達方法として注目されているクラウドファンディングをテーマにした「21 世紀型産業文化のつくり方」を開催した。

## 2 学内プロジェクト

今年度は2つの継続プロジェクト（美濃のいえ、地域・メディア・鉄道プロジェクト）に加え、新たに「根尾コ・クリエイション」プロジェクト（代表）をスタートさせた。これは本巣市の限界集落化する根尾を拠点に、ベンチャー企業や建築デザイン会社などとの共創により地域で新しい価値の創出を試みるプロジェクトである。初年度となる本年は、古い倉庫ビルを自分たちでリノベーションして活動拠点を作り、集落フィールドワークなどを実施し、そこで見つけた“ユニークなもの”をベースに、新しいモノやコトを創る試みを実践している。

一方、最終年度となる美濃のいえプロジェクトは、地域コミュニティへの移行を前提に、これまで以上に地域の人たちの活動や意識を中心となるような活動を実施した。特に、石窯を使った食の活動、古い活版印刷を使った創作活動などである。また、外部のクリエイターたちの参加も取り込みながら活動した。結果として、プロジェクト終了後も、美濃のいえに関わった地元コミュニティの人たちが中心となり、美濃のいえが継続的、かつ発展的にコミュニティ活動の拠点となっていくことにつながった。3年間の研究活動については紀要で報告した。

鉄道プロジェクトでは、これまでの研究成果が新しいニーズにつながる取り組みが二つあった。一つは、長良川鉄道からの連携相談で、これは「奥美濃ソウルトレイン」として実施された。郡上踊りの時期に合わせ、踊りの動き光る下駄（蛸駄）を開発、参加者たちはそれを履きクラブ空間に変わった車輦内で音や光に合わせて踊るという企画を一般客向けに実施した。もう一つは、イアマス卒業生からの持込み企画と連携し、若者に人気のグループ NETWORKS をゲストに迎えてライブトレインを実施した。チケットはすぐに完売するほどの人気となった。列車を使った新しい体験に多くの乗客が感動し、これまでのプロジェクト成果が新たな需要を創出することにつながる成功事例となった。

また、樽見鉄道を活用し、日常的な列車内シーンに少し変化を与えるインタラクティブデザイン「メリーからクリスマス」の企画・開発および実施を行った。これは来年度に継続していく予定である。

## 3 学外プロジェクト

2014年度に引き続き、今年度も猫の殺処分ゼロを目指した啓蒙活動を目的としたネコ市ネコ座実行委員会の運営に参加した。今年度は1月に岐阜駅前のアクティブGにて岐阜県内の高校生たちと Internet Cat Film Festival の開催し、また、3月には神戸ネコ市ネコ座を開催し、3000人以上が参加するほどの盛況となった。

---

## 学外での研究活動

### 1 小さな離島とコミュニティラジオの調査

2011 年より共同研究者として参加している「日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因」（科研基盤 B）で、昨年度に引き続き、小さな離島とコミュニティラジオをテーマに、奄美大島、徳之島、沖永良部島でフィールド調査を実施した。調査は来年度夏に国際学会で報告予定。

### 2 コミュニティラジオ放送の実践

市民型のコミュニティラジオ放送の実践を様々な場所や機会を使って実践している。岐阜市メディアコスモスで月2回実践されている市民ラジオ放送「てにておラジオ」にて、NecoNeco ラジオ（ネコラジ）の番組を行っている。また、ネコ市ネコ座でもネコラジの生放送を実践した。

### 3 学会発表や著書

金山智子「コミュニティ FM 局が向き合う課題：制度的プレッシャーの視座から」（査読付）第 32 回情報通信学会(青山) 2015 年 6 月

金山智子「自走型保護猫カフェ『ネコリパブリック』—ソーシャル・フランチャイジングの可能性」（査読付）日本 NPO 学会 18 回年次大会(京都) 2016 年 3 月

平林 真実, 金山 智子, 城 一裕, 瀬川 晃「クラブトレイン:ローカル鉄道を利用した移動体エンタテインメント空間」エンタテインメントコンピューティングシンポジウム 2015 論文集, 2015, pp297 - 300, 2015-09-18

金山智子「美濃のいえプロジェクト—3年間の記録、そしてこれから」情報科学芸術大学院大学紀要第 7 巻,pp.119-124.

金山智子「西尾美也さんのレクチャーから考えたこと」情報科学芸術大学院大学紀要第 7 巻,pp.99-104.

### 4 研究助成

公益財団法人小川科学技術財団 （共同研究）

日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因」（科研基盤 B）（共同研究）

### 5 その他 社会活動など

一社）社会情報学会 評議員

公益財団法人プランジャパン 理事

特定非営利活動法人地域魅力 監事

愛知県立芸術大学 非常勤講師（博士生外部指導教員）

ZIP-FM 番組審議委員会委員（副委員長）

さかの映像祭実行委員会委員（聾啞者の映画）および映画祭審査委員